

Hamburger Symphoniker

ハンブルク 交響楽団

ソリスト
宮田 大 (チェロ)
Soloist: Dai Miyata, Cello

指揮
シルヴァン・カンブルラン
Cond. Sylvan Cambreling

曲目

ベートーヴェン: 序曲「エグmont」op.84 より
Beethoven: Overture, from "Egmont" op.84

サン＝サーンス: チェロ協奏曲 第1番 イ短調 op.33
Saint-Saëns: Cello Concerto No.1 in a minor, op.33

チャイコフスキー: 交響曲 第4番 ヘ短調 op.36
Tchaikovsky: Symphony No.4 in f minor, op.36

※*やむをえず出演者、曲目が変更になる場合がございます。

2023年 7月21日(金) 19時開演 (18時開場)

東京芸術劇場コンサートホール

Friday 21 July 2023, 7:00pm at Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

全席指定 S席 15,000円 | A席 13,000円 | B席 11,000円 | C席 9,000円

4月3日(月)
10時~発売

※未就学児童のご入場
はご遠慮ください。

ご予約
お問い合わせ

日本アーティストチケットセンター 03-5305-4545 <http://nipponartists.jp/>
東京芸術劇場BoxOffice 0570-010-296 (ナビダイヤル) 休館日を除く10:00-19:00

日本アーティスト

検索

●チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード237-908) ●イープラス <https://eplus.jp/> ●ローソンチケット <https://l-tike.com/> (Lコード 31793)

◆主催: 日本アーティスト

ハンブルク交響楽団

Hamburg Symphony Orchestra -
Laezhalle Orchestra

ハンブルク交響楽団は、1957年に設立、2017年からライスハレの常駐オーケストラとなる。ハンブルク初のコンサートホールのユニークで豊かな歴史に深く根ざした当オーケストラは、音楽の卓越性と現代のオーケストラのあるべき姿のロールモデルとなり、生きた文化施設となっている。特に過去20年間で、オーケストラの成功は目覚ましく、国内外から多くの称賛を得ている。

ハンブルク交響楽団は的確で挑戦的でありながら親しみやすいプログラムの作成に力を注いでおり、その活動には現代の著名な音楽家達との革新的なコラボレーションや祝祭的なプロジェクトだけでなく、室内コンサートシリーズ、毎年6月に開催される国際的に有名なマルタ・アルゲリッチ・フェスティバルを含むフェスティバル、および刺激的で幅広いアウトリーチと教育活動も含まれる。

シルヴァン・カンブルランは、2018年からハンブルク交響楽団の首席指揮者を務めており、彼の世代で最も有名な指揮者の1人である。魅惑的で刺激的で豊かな色彩の演奏は高く評価され、的確で自由なスタイルは、現代音楽やミュージカルの多くの重要な世界初演などと密接な関係を築いている。カンブルランとの共演は、オーケストラに新しい視点を開き、彼の芸術的誠実さは、前首席指揮者サー・ジェフリー・テイトが築いたオーケストラの温かみのある木管楽器主導の音がしっかりと継続されている。

ハンブルク交響楽団は、コンサートホール以外で演奏することも多く、国内および国際ツアーでは文化的持続可能性に留意、関係者全員に文化的な「付加価値」を生み出し、政治的および文化的再生への衝動を生み出す必要があるとの立場をとっている。

オーケストラの最も重要な美的アプローチの1つに、他の芸術様式との交流、劇場、映画、ビデオ、照明等のコンサートへのコラボレーションを通じて、聴衆を拡大している。



指揮者

シルヴァン・カンブルラン

Sylvain Cambreling

2018/2019年のシーズンからハンブルク交響楽団の首席指揮者に就任。

1948年フランス生まれ。これまでにベルギー王立モネ歌劇場の音楽監督、フランクフルト歌劇場の音楽総監督、バーデンバーデン&フライブルクSWR(南西ドイツ放送)響の首席指揮者、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を歴任。2010年から2019年3月まで読売日本交響楽団の首席指揮者を務め、現在は同楽団の桂冠指揮者。客演指揮者としては、ウィーン・フィル、ベルリン・フィルをはじめとする欧米の一流楽団とも共演、オペラ指揮者としてもザルツブルク音楽祭や、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座などの主要歌劇場に数多く出演している。



©日本コロムビア

Soloist Dai Miyata

チェロ 宮田 大

2009年ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールにおいて、日本人として初めて優勝。これまでに参加した全てのコンクールで優勝を果たしている。その圧倒的な演奏は、作曲家や共演者からの支持が厚く、世界的指揮者・小澤征爾にも絶賛され、日本を代表するチェリストとして国際的な活動を繰り広げている。

スイスのジュネーヴ音楽院卒業、ドイツのクロンベルク・アカデミー修了。

録音活動も活発で、最新アルバムは2022年10月に『ラフマニノフ:チェロ・ソナタ』をリリース。またトーマス・ダウスゴー指揮、BBCスコッティッシュ交響楽団との共演による「エルガー:チェロ協奏曲」の欧米盤が、欧州のクラシック界における権威のある賞の一つ「OPUS KLASSIK2021」を受賞するなど、海外からの評価も高まっている。

近年は国際コンクールでの審査員や、ロームミュージックセミナーの講師を務めるなど、若手の育成にも力を入れている。

使用楽器は、上野製菓株式会社より貸与された1698年製A.ストラディヴァリウス“Cholmondeley”である。